

地域文化論

〈その197〉

寅さん映画の次を どう思う？

嶋田 勝次

〈関西学院大学教授〉



寅さんも震災後の長田区でボランティア。48作目「寅次郎紅の花」

八月八日の朝刊に大きく「男はつらいよ」寅さん渥美清さん逝く68歳、肺がんで4日に、とある。

映画ファンの私にとっては、いつも年末になると寅さん映画を楽しみにしていた。この前の48作目では、神戸の下町も訪れ、神戸やら地震やらに海とか港とかが入っているのか、マドンナは誰なのか、興味いっ

ぱいで心待ちにしていたのである。震災の前に神戸港メリケン波止場に映画の記念碑ができていた。日本の映画俳優ばかりではなく、外国の俳優も入って、全部で五十人だったか百人だったかを彫像にしたものである。

何年前の映画の日だったかに完成記念の会を行ったことがあるのだが、それがその後どのようなになっているのかも知らないままなのが、いささか気になって来た。

もちろん寅さんはこの中に入っていないかったし、入らされたとしたら、照れて逃げたであらう。しかし、しかしである。この際だから、そして神戸の地だからこそ、あの世からのぞきに來るということにならないかなあと思っている。

震災復興はまだまだ遠いので、寅さんがひとあし早く神戸や阪神淡路を助けに現れたというような寓話でも童話でもいいからやつてくれないかなあと思う。

街は地震から一年半余が経過したのにも思いますが、なかなか新しい方向は芽生えてこない。

寅さんはあの世へ行ってしまうし、なんとか気分転換をしたいと思います。いたら、同窓会の知らせが来た

ので、久しぶりに北陸金沢へ行っただ。疎開先の福井を焼け出された後、二年間だけ在席した金沢一中の会である。覚えている人は少ないのではないかと思っていたら、何人も知っている顔が目の前に現れ、いっぺんに記憶が昔にもどった。あの頃、県立や市立の図書館に出入りし、文芸部にも入って活字にのめり込んでいた。その後、神戸にもどってからは、映画に熱中した。自分も年をとって、



左から、故・渥美清（寅さん）、浅丘ルリ子（リリー）、山田洋次監督、後藤久美子（泉）、吉岡秀隆（満）

色々読んだはずの文学作品も、たくさん見た洋画邦画も記憶が薄れてきている。残り火のようにつながって楽しんでいた寅さんともお別れで、いささかなさけない。

今の若者達は、何に熱中しているのだらう。パソコン、スポーツ、音楽等々多岐にわたっているだろうが、社会の再構築に向かって沢山とは違ってほしいと思う。

◆メッセージ／神戸復興への一提案◆

魅力あふれる街づくりを みんなのちからで

砂野耕一 川崎重工工業株式会社 専務取締役



復興がすすむ神戸の街

震災後二十九月、よくここまで復旧できたと思います。

神戸の産業経済の復興は、被災した産業や企業を震災前の状態に戻すだけでは復興したことにならず、復興によってグローバル市場の大競争の中に踏み込んでゆくことができるようにすることが必要です。

今後は、従来の大量生産型の画一的なモノの生産拠点を存続させることはますます困難になっていくことが予想されます。そこで、コストの経済性よりもむしろ高度な人材や情報が確保できることを企業立地のインセンティブとするような創造指向型の産業・機能の集結を図り、産業構造の高度化を進めていかなければならないのではないかと考えます。

このため、この地域の人的・技術的資源を最大限に活用して、既存産業の高度化を図るとともに、二十一世紀に向かって有望な新しい産業を育成・誘致して、足腰の強い産業構造の形成に努力し、雇用を確保し、活力のある街づくりが進められて行かなければなりません。

当社は、今後とも神戸の復興に積極的に参加・協力してまいりたいと存じます。

◆メッセージ／神戸復興への一提案◆

新しい投資制度です！

やる気のある女性・学生・企業を
ネックスがバックアップ

財団法人 兵庫県中小企業振興公社

〔兵庫県新産業創造キャピタル制度〕
株式・社債の引受け
融資の債務保証

NECCS

わたしたちが「ネックス」の
構成メンバーです。

事業主体
財団法人兵庫県中小企業振興公社

■特定ベンチャーキャピタル（第1期）
このキャピタルは、兵庫県新産業創造キャピタル制度の第1期として、平成7年度から平成8年度までの期間、兵庫県内において、新規創業の企業に対して、最大100万円（1社あたり）の範囲で、融資の引受けと債務保証を行う。

■特定ベンチャーキャピタル（第2期）
このキャピタルは、平成8年度から平成9年度までの期間、兵庫県内において、新規創業の企業に対して、最大100万円（1社あたり）の範囲で、融資の引受けと債務保証を行う。



やる気のある

女性・学生・脱サラ・企業に

「ネックス」が「投資」＋「融資」します。

財団法人 兵庫県中小企業振興公社 投資業務課 TEL.078(360)5310まで

(NECCS (New Enterprize Creation Capital System))

兵庫県では、震災からの産業復興を図り、21世紀に向けて持続的に発展する新たな産業の創出を図るため、従来の公的な資金支援施策である補助金や融資に加え、新たに「投資」という手法で企業の創業・新事業展開を支援する「新産業キャピタル制度（NECCS）」を創設し、平成8年4月30日から募集を開始しました。

NECCSには、復興特別投資制度・女性起業家等支援制度・一般投資制度の3つの制度があります。一般投資制度は、各都道府県ごとに順次創設されている国（中小企業庁）の間接投資制度ですが、復興特別投資制度・女性起業家等支援制度は（財）阪神・淡路大震災復興基金事業として行う、公社の単独投資や民間の投融資機関との協調投資等を取り入れた他府県に例のない独自の制度です。

本制度に対する関心は非常に高く、現在までに約250件の相談・申し込みがあり、このうち5件について「新産業創造キャピタル審査会」に諮問の上、投資決定しました。

NECCSが、「中小企業創造活動促進法」認定企業の他、新たな分野に事業展開しようとしていたり、これから新たに事業を開始しようとしていたりする方々に積極的に活用されることにより、本県産業の創造的復興に寄与するよう頑張っております。

お問い合わせは以下まで。

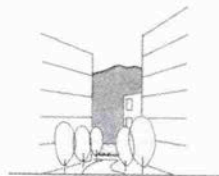
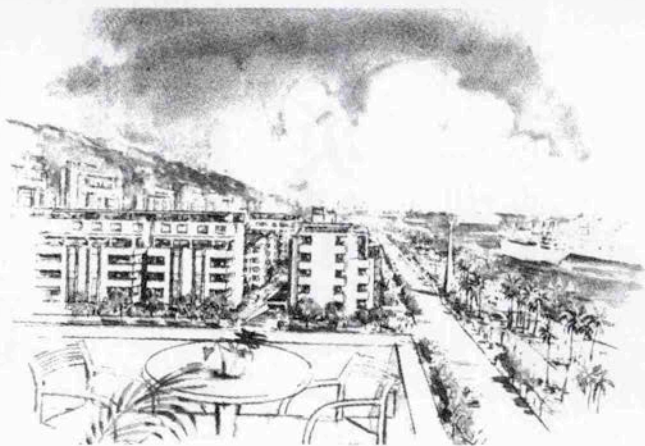
◆メッセージ／神戸復興への一提案◆

「神戸らしさ」を大切に

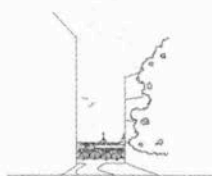
南北の坂道から海と山が見え、東西には風の道が通る、
光にあふれ、街角すみずみまで花が咲きみだれる

中川洋一

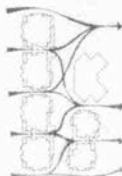
株式会社安井建築設計事務所 常務取締役神戸事務所長



六甲山



海



風の道

新しいまち（たとえば東部新都心）をつくる場合、「神戸らしさ」として必要なことは、南北に海山の見える「抜け」を、東西には西風が気持ちよく通りぬける隙間をたくさん設ける、を基本的なマナーとして、東西の生活幹線（ブルーバール）や、交点にコミュニティプラザを持つ東西南北のコミュニティパスなどをオーバラップさせてゆくことだと思います。

特に東西のコミュニティパスは震災によって確認されたボランティア活動の可能性やコミュニティのネットワークのための活性化幹線になります。閉鎖的にならないようにできるだけ開放的に計画することです。

既成の街区ではメーカーによる個人住宅の復興が進んでいますが、多くの場合「神戸らしさ」への気くばりが不足しているように思います。

神戸に似合う色は明るい色です。外壁には純白に近い白色あるいは六甲山の風化花崗岩の色、明るい肌色が最もふさわしいと思います。これは海の色、山の色と明るく調和し、そして緑、とくに花を飾るのに最もふさわしい色です。玄関や窓のまわりには、個性的な表情やアクセントカラーが欲しいものです。

花を飾る家が増えてきました。私も東灘区で被災しましたが、自分の家が再建できれば近所の人達と一緒に、花のある街角をつくりたい。無表情なメーカー住宅も花によって住む人の生氣と個性を感じさせる豊かな表情をもつと思います。

すべての神戸人は、震災復興にあたって「神戸らしさ」についてのイメージをそれぞれの立場でつねに発展させてゆかねばなりません。

■対談■

神戸はいま、

震災結婚と震災ベビーブーム

小山 乃里子 〈神戸市会議員〉

桂 あやめ 〈落語家〉―写真右―

― 40 ―
実りの秋、今年もブライダルシーズンがやって来ました。震災後、神戸ではカップルが続々とゴールインしているようです。

そこで月刊神戸っ子では、結婚の理想と現実や震災後の夫婦関係の変化、またこれから結婚する人達へアドバイスをいただこうと、人生の達人、神戸市会議員の小山乃里子さんと落語家の桂あやめさんに大いに語っていただきました。

★憧れの二十四歳になったら
白いウエディングドレスを着るの

小山 もう、結婚して何年くらい？

桂 いえ、今は結婚していませんよ。

小山 ほんま？ でも結婚していたんですよね。

桂 二十四歳の時から三年間、結婚していました。実は、二十四歳で結婚することは、八歳の頃に決めたんです。少女マンガで「憧れの二十四になったら、白いウエディングドレスで、赤い口紅が似合わなくても、あなたの素敵なお嫁さんになるの」というセリフを読んで。当時、小・中学生の女の子に絶大な人気があった、陸奥A子さんというマンガ家さんの作品だったんですけど、それで、結婚は二十四歳かあ…と思ったわけです。

小山 それで、実際に二十四歳で結婚。





桂 落語家になって、気がついたら二十三歳。その時も

まだ、自分は二十四歳で結婚するものと思っていましたから「来年、結婚せなあかんねん」と、つきあっていた人に話しました。彼は「まだ四、五年は結婚する気ないし」という調子でしたけど「絶対に来年、結婚せんとあかんから! あかんかったら別の人とするし、早よ決めて」とたみかけるように言っ(笑い)。

小山 すこいわあ、それは。

桂 その後たまたま、占いの落語を作ろうと思って、四柱推命から西洋占星術、筮竹占い、手相・人相まで、ありとあらゆる方法でみてもらったんですね。そうしたら、どの占いでも二十四歳か二十五歳で結婚するとか、結婚したらと良いという結果。もう、これは確実やと、勢いで結婚した感じです。

小山 勢いがなかったら、結婚は出来ません(笑い)。結局、結婚生活は三年間だったわけだけれど、占いでは、結婚が続くとは言われなかったの?

桂 そうなんです、結婚するとは言われたものの、続く

続かないは言われてなかった。でも、結婚した時には、うまくいくとしか思ってたんですけど。とにかく二十四歳で結婚するという形に憧れていて、それはクリアしたわけですから。

小山 どんな生活ぶりだったのかしら。

桂 主婦で仕事をしているという、これもまた、そういう形に憧れていて。雑誌「クロワッサン」に登場するような、家事も仕事もできるタイプを目指していました。「クロワッサン」から取材がきたら、どんなこと話そうかとか想像しながら(笑い)。

小山 何でも、入り込むほうなんですわね。

桂 ええ、私は「クロワッサン」主婦よって、家事も仕事も頑張っていました。仕事の合間にターッと帰ってきてごはんを作ったりしていると、何て要領がいいんだろって自分に酔ってしまつて。でもそのうちに、何でこんなにしんどいんだろう、しんどいわあという感じになってきたんですわね。

小山 ひとりで張り切りすぎたのね。

桂 仕事も家事もこなす自分に酔ってましたから、彼には家事は一切しないでいいって言っていたんです。もともと何でもお母さんにしてもらうタイプだった彼は、本当に何もしませんでした。ごはんを作っておいても、私が帰宅して温めるまで何もしないというくらい、何もしない人です。

小山 それはまた、極端ですわね。

桂 男性の落語家さんを見ると、みんな結婚して、すごく楽になっているんです。例えば、着物の襟付けまで自分でしていた人も、そういうことは奥さんがしてくれるようになる。マネージャー的なことまでしてくれる奥さ

人もいます。芸の上でも、結婚して良くなっている人が多いんです。それなのに、なぜ私は結婚してしんどくなっているんだらうと、理不尽な感じがしました。仕事後の打ち上げでも、家で彼が待っていると思うと、時計ばかりが気になります。帰れば帰ったで、飲んで帰った。遊んで帰ったというふうに受け取られてしまう。落語家のような職業では、打ち上げまでが仕事のうちみたいなところがあるんですが、理解してもらえませんでした。彼は落語とかお笑いの世界にはまったく興味がなくて、私の高座も一度も見たことがないくらい。私は家と仕事場とで二重人格のように生活をしていて、本当に疲れてしまったんです。結婚していた時に作ったネタは、今考えると、無理な生活でたまったストレスを発散するようなものばかり。女王様の格好をして「SM大喜利」とか(笑い)。

小山 私の結婚相手は、別れた後に惜しいことしたと思うくらい、いろいろしてくれる人でした。料理が上手で、休みの日なんか、朝からコトコトと本格的なシチューを作ってくれたりね。

桂 無理なく家事が好きな人だったんですか？

小山 当時私が、まったく料理が苦手だったせいもあったと思いますけれど、何でも楽しんでいました。山が好きで料理が好きで、という、そんなタイプの人。私が病気になるば、おかゆを炊いて「一口でも食べろ」と言ってくれたりね。相手のいい点、結婚生活で良かったことって、振り返ってみると見えてくるものかもしれない。

桂 私も、彼から教えてもらったことは多いです。映画の照明マンだったので、特に映画に関して教わりましたね。「男はつらいよ」シリーズの面白さを知ったのも彼のおかげ。実は以前は、寅さんの東京的な笑いは嫌いだと思っていました。なぜみんな、お正月からこんな映画を観に行くんだろうと思っていたくらい。

小山 私は、毎年観に行っていました(笑い)。

桂 ところが、彼が面白いと言うのを信じて、テレビで放映されていたのを観たら、これが良かったんです。ラストでは、知らない間に泣いていた。それからビデオで一気にも過去の作品を観て、お正月には彼と寅さんを観に行くようになりました。ほかに、彼と結婚しなかったら知らなかったことたくさんあると思うし、感謝しています。

小山 その点では、違う世界の人だったことが良かったんです。私は同じ業界の人との結婚だったからなあ。

桂 結婚生活で、仕事のことを理解してもらえなかったでしょう。今度は、舞台での私をよく知っている、説明のいらぬ人がいいなあと思っていました。そうしたら本当に、落語仲間とつきあうことになって、やがて一緒に暮らすように。すると、もう楽でびっくりしました。例えば落語会があると話しただけで、帰りは遅くなる、それが当たり前！ということまでわかってくれるんです。私の方が先輩だったから、優位という雰囲気もあったし。家に入れば結婚当時と同じく、家事はしてたんですよ。でも「しなくちゃ」じゃなくて「してやってんねん」という感じで、気持ち的にすごく楽でした。でも今度はね、姉弟で暮らしているみたいで刺激がない！と思い始めてしまって、二年が限界でした。

★震災後、無性に子供が欲しい！

小山 難しいわね。それでも、やっぱり好きになつたら一緒に暮らしたいと思うものなのかしら。

桂 もう結婚という形に憧れはないし、今は一緒に暮らしたいともあまり思いません。相手を知りすぎてしまつて、一緒に暮らしている人が一番嫌いな人になつてしまつて。最初は相手のいびきすら、聞こえていると安心で嬉しかったのが、だんだん「やかましいなあ」とな

る。

小山 それはありますね。

桂 相手が一番傷つくセリフも知っているから、別れたいとなった後は、それを言ってしまうようになった。人間として言っではいけないことだろうと思いがちでも、我慢できなくなるんです。



小山乃里子さんと桂あやめさん（右）

小山 そうですね、一緒に生活を続けようと思ったら、言っではいけないことあります。でも、別れたいとなったら、はっきり言うことも必要かもしれません。私の場合は最後まで何も言えずに、かえってドロ沼状態になってしまいましたから。私は見かけによらず気が弱いというか、相手のことをあれこれ考えてしまって、何も

言えなくなってしまうんです。

桂 人情に厚いタイプということですね。私なんかは、イヤとなったら、何もかも置いて飛び出してしまいうタイプ。人それぞれですね。

小山 女性が働くようになったこともあって、結婚のありようも変わってきたし、結婚にこだわることもないと思いますけれど、今後は、どんなことを考えてますか？

桂 例えば、東京と大阪に離れて住んでいるけれど、子供もいて、たまに会って楽しく過ごす。それぐらいの関係が自分には合っているんじゃないか、うまくいくんじゃないかと思います。

小山 私が知っている中で、一番結婚生活がうまくいっていると思うのは、高校時代の親友のケース。彼女が三十四歳、ダンナさんが六歳年下の二十八歳で結婚したんだけれど、当時のことから双方の両親は反対するし、世間からもあれこれ言われるので大変だったんです。ところが、ダンナさんが三十代後半になったら、自然現象で頭の方が薄くなってきた。今ではダンナさんの方が、年上に見えるくらいなんです。年齢のことだけではないけれど、当人同士がしっかりとっていれば、まわりが心配することは何もありません。

桂 年齢に関しては、逆にダンナさんがすごく年上だと、奥さんが老けてくるみたいな感じがありませんか。相手に合わせようとするのか、自然に合ってしまうのか。

小山 きっと、そういうのつてある。だから、女性は十歳ぐらい年下の相手を見つけないあかん笑い。

「震災結婚」が多いという話を聞いています。不測の事態によって、必要とする相手を再認識したという感じらしいのですが。

小山 私が聞いているのは、壊れたカップルの話ばかり。地震後、一週間ぐらいで連絡がとれた時に彼女から「あなたみたいな人とは別れる」と言われたとか。相手も大変だったのはわかって、彼女にしてみれば、何を置い



●小山 乃里子
神戸市会議員（東灘区選出・無所属）。小樽市生まれ。関西学院大学卒業。ラジオ関西アナウンサーを経て、毎日放送「ごめんやす馬場章夫です」AM神戸「ビバ・タカラジェンヌ」などフリーパーソナリティーとして活躍。著書に「結婚するバカしないバカ」「バンドラの小道」などがある。

でも自分のところへまず来てほしかったわけです。

桂 「震災離婚」も多いみたい。ダンナさんが地域のリーダーとして飛び回っていて、家に帰ったら奥さんに「あんたは家族のことを考えてない、私のことを愛してない」と離婚を言い渡されたケースを聞きました。

小山 でも同じことをして、見直されたダンナさんもいるわけ。奥さんは日頃、頼りないダンナと思っていたのに、リーダーシップを発揮しているのを見て、見直したというんです。見直したケースと幻滅したケース、実際は半々ぐらいの割合なんだろうね。とにかく別れがあったり、出合いがあったり震災の時は大変でした。

桂 出合いといえは、ボランティアの人と結婚したという話も聞きますね。それから、震災後に子供が欲しいと考えた夫婦が多いらしいんです。大勢の人が亡くなったので、その分を補わなければならない本能のようなものが働くのか。私も母や親戚を亡くして、結婚もしていないのに、無性に子供が欲しいと思ったんです。実際、まわりの友人などに聞くと、今年は出産ラッシュになっている。

―終戦後のベビーブームの状況に似ていますね。

桂 震災や戦争を経験して、誰かと一緒にいたいとか、ひとりで死にたくないとか、子供を残したいと思うのは

本能ですよ。私、自分でも不思議なんですけれど、体が勝手に子供を欲しがっているという感じで。今年、三十二歳だから、年齢的なものもあるでしょうけれど、震災の影響大だと思えます。

小山 それは、ぜひ生まなくちゃ。いい話じゃないですか。言われてみれば、私の住んでいる六甲アイランドも若い夫婦が多いので、確かに今年は赤ちゃん多いですよ。今ちょうど、「森南の人々」という本を読んでいるんですが、おじいちゃんが亡くなった日に孫が生まれたとか、生まれ変わりの話を書いてある。人生の不思議という感じがします。

★結婚は最初が肝心、無理せず譲り合う心ひとつ

―森南というのは、お年寄りの多い地区ですが、割に二世、三世代での同居も多くて、昔ながらの家族関係が成り立っている感じがですね。

桂 私が作った話に「ぎりぎりコミュニケーション」という、嫁姑を扱ったものがあるんですよ。少し前のお嫁さんは、レトルト食品や化学調味料ばかり使って……とお姑さんに言われた。でも最近では、お姑さんがレトルト食品世代で、お嫁さんが無農薬野菜とか玄米とか自然派志向に走っている。いずれにしても、必ず世代間のギャップはあるだろうというネタなんですね。その話の中で嫁姑は、歩いて五分のところに住んでいるんですけど、これは私が結婚していた時の状況でした。友人などからは、別居だからええやん、と言われましたが、とてもない。昔ながらの町での歩いて5分ですから、近所は全部、お姑さんのシマです。午前中に買い物をする、午後には何を何グラム買っていたかまで近所の人からお姑さんへ報告が入るといふこと。ダンナさんは、好きで選んだ人なわけだし、意識変革させて自分のペースに合わせ、という方向へ持っていくことができます。で



●桂 あやめ

落語家。神戸市生まれ。昭和57年、桂文枝師匠に入門。平成6年、桂花枝改め三代目「桂あやめ」を襲名。嫁・姑ネタなど、女性ならではの感覚を生かした創作落語で人気を得る。震災による実母の死を乗り越え、現在、高座だけでなくテレビのリポーターとしても活躍している。

もダンナさんの家族までは変えられません。あちらの家にしてみれば、私の考え方ややり方の方が異様なわけで、その私が何かを変えようするのは、革命を叫んでいるみたいなもの。手錠をかけられそうな雰囲気になってしまったんです。

小山 結婚する時には、特に反対されたりはしなかったんでしょ？

桂 ええ、落語の仕事をやめるとも言われませんでしたし。でも、ダンナさんの実家の常識としては、結婚したらやめるだろうと考えていたんですね。「まだ、仕事してはるねんね。でもそのうち、子供できたらやめなアカんし」と当然のように言われましたから。私にとっては、そういう考え方こそ、まったくピンとこないものでした。考えてみれば、落語家になるといえるのは師匠の家の子供になる、つまり私なら桂家へ嫁いでいるようなもの。

小山 なるほど、二カ所へ嫁いでしまったことになるわけね。

桂 お正月、元旦は一日しかありませんよ。うちの一家では、師匠の家に何時に行つてという元旦の行事があるんですけれど、ダンナさんの実家にも、同じように伝統的なしきたりがあります。「それができへんとは、どういうこと？ あんた、この家の人間やないの？」と言わ

れて、どっちをとるかということになってしまひまして。うちの師匠は昔気質の人ですから、嫁ぎ先に合わせるのが当然、自分のところへは来なくていいと、はっきり言われました。男のお弟子さんなら、そんなことはないわけで、私は納得できなかった。というか、寂しくなりました。離婚してしまつたのは、これも大きな原因でした。やっぱり私は、先に落語家の家に嫁いでいたんだから……ということですよ。

小山 バランスの問題なんですよけれど、それだけ落語が好きだったということですね。私は、結婚していた時も旧姓のままアナウンサーの仕事をしていたので、お給料の時、名前が相手の名字に変わっていて妙な感じがした思い出があります。

―それでは最後に、これから結婚される方にひとこと。

桂 震災の時も死を身近に感じましたけれど、私は三年ほど前に、強盗に入られて怖い思いをした経験もあるんです。その後一緒に暮らした年下の彼が、まっさきに駆けつけてずっと一緒にいてくれて、本当にありがたかった。困った時や大変な時に一緒にいてくれる人がいる……、それが結婚のいいところなのかなと思ひましたね。それから、結婚は最初が肝心！ 無理をしても続かないし、楽しい生活は望めません。

小山 「週刊朝日」に、夫婦の対談が毎掲載されているんですが、人生をやり直すとしても同じ相手と結婚するとおっしゃる方が多い。それから震災後、年輩のご夫婦が仲良くいたわりあって歩いてらっしゃる様子を見る機会が増えた気がします。年輪を重ねたからこそ素敵な夫婦関係ってあるんですね。別れを経験した後に感じたことですが、続けるコツは結局「譲り合う心ひとつ」でしょうか。

〈にしむら珈琲北野店にて〉

ジャズトランペッターの
タイガー大越



ママKISSの
佐々木 湘



対談シリーズ

The Babyboomersの男と女

〈団塊世代〉

第3回 FRIEND 〈友だち〉

ちよつと前の言葉「不倫」とは違う団塊世代の友だち関係。新たな出会いや旧友との再会に、ちよつとドキドキしながらも、あくまでも友だちとしてつきあう。そして確固たる家庭も存在させる、欲張りな世代かもしれない。

若いときとは違うつきあい方ができる男と女

― 近頃は、夫婦ともそれぞれ異性の友人をもっていることが多いのではないだろうか。

佐々木 女は子育ての時期はガムシヤラに生活してるけど、子どもがある程度、成長したときにふと周囲を見渡しますからね。タイガー えーっ、不安になってくるじゃない。ぼくたち、七週間も離れてるんだから。

佐々木 あんまりキョロキョロされたくない？

タイガー キョロキョロ？されたくないね。

佐々木 それが、男の人の本音かな。一八歳のときからずっと一緒だって？ その間に揺らぐ気持ちは一度もなかったですか。タイガー 彼女は別格だからね。ワ、楽しい人だなと思うことはありますけど。

佐々木 子育ても一段落して、四〇代になってから友だちづきあい、ほんとに楽しくなったね。だって、ボーイフレンドは私たち夫婦に確固たるものがあると思うてるから、家庭が壊れたらどうしようなんて絶対思わないから。

タイガー で、ルームナンバーは？

佐々木 ウーン、一〇。ちやうか。(笑) これから友達が増えると思う。異性の友だちは、どこかでお互いに好きだなという気持ちを振り払いながら、なおかつ友だち。ちよつとドキドキが楽しいね。タイガーさんはどう。

タイガー そういう雰囲気は好きだけど、でもぼくは同性愛ではなく男の人でも好きな人、いてるけど。自分の求めている時間をつくってくれる人なら男でも女でもいいですね。今回も小曾根真くんと一週間、一緒に仕事をして、会えてよかったとか。

□佐々木瀬 (作家) 昭和25年生まれ。関西学院大学大学院卒。本誌連載の「イノセント・イモラル・マミー」が新潮社より「ママにはKISSがよく似合う」として刊行。出版記念パーティーでは「私のボーイフレンド」を紹介するコーナーが一番人気。「どうして内のダンナが選べないのか」とご婦人がたの不満の声もあったとか。

□タイガー大越 (ジャズ・トランペッター) 昭和25年芦屋市生まれ。関西学院大学卒業後、パークリー音楽大学を首席で卒業。多くの女性ファンがいるにも関わらず、明美夫人を尊敬し家庭をととても大切にす。8月4日の第2回フェニックスジャズフェスティバルに出演のため来神。翌日には間空からボストンへ飛び立った。



Daiet

提供/株式会社 ダイエー



ずっと前から知っているんだけど「はじめまして」という言葉を使うぐらい親しくなったりね。

佐々木 この前も、ある記者が取材に来たらなんと同級生。今、それぞれ仕事をしてきて、お互いに価値観を確立した時点でつきあうと、とても楽しいよ。それが、若いときと違うつきあい方でしょうね。一〇代、二〇代では形とか憧れとかだけでつきあっているけど、四〇代になると感性があらうとか、同じような生き方をしてきたとか、共通する面でわかりあえるとか。それが、お互い結婚してる相手だったりするだけでしょう。

タイガー ぼくは、日本へ帰って来てもつきあう時間がないでしょう。コンサートの後の数分だったりするわけで。誰かに会いたいなんて思っても「大越君、私あなたのステージ何回も見えんだけど、私を見たら絶対がっかりするから」ってケーキを贈ってきってくれるとかね。

佐々木 タイガーさんはアメリカにいるから、そういう再会って少ないかもしれないね。アメリカではどうなの？

タイガー ワイフのお友だちが多いかな。

佐々木 ボーイフレンド？

タイガー いやあ、ガールフレンドですよ。(笑) ボストンでは年に一回ぐらいしか公演しないから。定住してる彼女の方がお友だちは多いから。ぼくのまわりはミュージシャン関係ばかりでしょ。ボストンにいるときは、ベストの話相手は絶対ワイフ。佐々木 自立した生き方をしてる女性って団塊世代には多いかもしれないんだけど、それは理解できるでしょ。

タイガー それはもうぼくは、女性を尊敬してる人だから。女性の意見のほうが進歩的だし、ちょっとしたものでも選択するセンスがいいとか、いい決心をするとかね。女性グループに呼ばれたコンサートなんか絶対いくものね。

佐々木 でも、彼女が何かに目覚めたらどうする。

タイガー いつも言ってますよ。何かやったらって。日本にいたら何でもできるんでしょうけどね。彼女も文学部だったし、ぼくの自叙伝、書いてよって言ってるんですよ。

佐々木 あなたを一番よく知ってるわけだから、それいいよね。

(神戸メリケンパークオリエンタルホテルにて)



■「福祉のまちづくり条例」を改正

21世紀に対応する 福祉のまちづくりをめざして

お話を伺った人

門永るみ子さん（兵庫県福祉部福祉企画室副室長）

兵庫県は、「福祉のまちづくり条例」を全国の自治体に先駆けて制定し、バリアフリーのまちづくりを推進してきました。さらに、震災を契機に条例および施行規則を改正。「二十一世紀に対応した福祉のまちづくり」を一層積極的に推進していきます。

「福祉のまちづくり条例」および施行規則の改正の具体的な内容について、県福祉部福祉企画室の門永るみ子副室長にお伺いしました。

「二十一世紀の超高齢社会を前に、私たちは、一人ひとりが福祉の担い手であり受け手でもあることを理解し、温かい思いやりの心をはぐくみつつ、すべての人が生きがいを持って快適に暮らせる福祉のまちづくりを進めなければなりません。」

このような観点から、平成四年に制定された「福祉のまちづくり条例」のもと、公共施設などを中心に、エレベーターの設置や出入口の段差解消に取り組むなど、互いに助け合い等しく社会参加の機会がもてるような環境づくりに努めてきました。

また、阪神・淡路大震災では、家族や地域の人々が支えあうことの大切さを再認識。そこで、この共助の心をはぐくみながら、すべての人が住み慣れた地域で安心して暮らせるバリアフリーのまちづくりをさらに推進していくために、「福祉のまちづくり条例」と施行

規則が改正され、来年の四月から施行されることとなりました。住宅の出入口の段差解消や車いすが通過できる幅員の確保など、高齢者・障害者はもちろん若い人も老後まで快適に暮らせる住宅の整備基準を定めるとともに、手すりやスロープの設置を義務づける条例の対象が日常よく利用する小規模店舗（用途面積百平方m以上）にまで広がられます。また、一日の乗降客が五千人以上の駅が新築・改築する際、エレベーターの設置が義務づけられたことも改正点の一つです。」

兵庫県では、福祉のまちづくりを工学的な見地から研究するため「県立福祉のまちづくり工学研究所」を設置しており、すべての人が快適に暮らせるよう、様々な視点から研究・開発が進められています。十一月には広い実験空間と最新の実験設備などを備えた新研究所棟が神戸市西区に竣工。今求められている福祉のまちづくりに関する政策提言や企業と連携した福祉機器の開発など、さらなる成果が期待されるところです。

「福祉のまちづくり条例」「福祉のまちづくり工学研究所」など、常に全国に先駆けた福祉施策を打ち出す兵庫県。震災での教訓をいかして、福祉のまちづくりをどのように先導していけるのか注目されます。

福祉のまちづくりは段差のない街。

段差のないお家から...

段差のない街は
福祉の街なのだ...



段差のない
お家は
幸せな
お家だよ

ここに
ちは...

出入り口が広いと
心も広く
ゆたかななるわ...

パソコンを
やる気になったぞ

よく入で
来られたなア

駅に
エレベーター
ついたんだか

やあー
いらいやい

ボランティア
活動も
やりやすくなったわ

ボクでも
じちゃんを
フロ場に
つれていける

おはあちゃん
元気になる

料理を
教えて
もらえるようになった

そのした
なア...

上からなくて
すむから
楽なんだ

家のなか
自由に動ける
からだ

勉強
見てやろっか...

おじいちゃん
元気になる
な、たねー

たけし



■創り出そう新しい神戸 「いのちある街」を植えつづける ひょうびグリーンネットワーク

大震災の直後、わたしたちが求めたもののひとつは、花であった。激震体験の心の傷をいやしくくれるのは、励ましの言葉とともに、変わらぬ自然の彩りであった。

長田区の御蔵菅原を訪れた皇后さまが焼け跡に置かれたスイセンの花束は、お言葉以上の慰めになった。大丸神戸店のビル解体のそばでずっと咲き始めた街路樹のモクレンは、そのけなげな姿でわたしたちに勇気を与えてくれた。

千葉から菜の花、岐阜から桃の花、岩手からリンドウ…。全国からボランティアが花を背負って神戸へやって来た。避難所に飾られ、つぶれた家のかたわらに供えられた。



安藤忠雄さん

建築家安藤忠雄さんを中心に、元阪神・淡路復興委員会委員長の下河辺淳さん、作家瀬戸内寂聴さんたちが呼びかけ人になって「ひょうびグリーンネットワーク」がこんな運動を進めている。

再建される住宅、新設される公園、補修される街路などに、十年がかりで二十五万本の木を植えよう、復興のシンボルとして、市民の共有財産として、まさに森や並木を作り出そう、というのだ。

鷹取・大国公園のクスノキは火止めの役割をりっぱに果たした。こずえは焼け焦げたが、いま新しい芽が伸び始めている。東灘区のまちづくり運動は、新しい家にはブロック塀ではなく生け垣を作ろう、と申し合わせている。

安藤さんは「直後から何度もまちを歩き回ってぼうが痛切に思ったのは、この痛々しい光景も数年すれば記憶から薄れてしまうだろう。六千人以上の犠牲者を悼み、新しいまちを作っていくという決意を忘れないために、白い花をたくさんたく



宇都宮市から贈られたイチョウを兵庫県公館の庭に植える安藤忠雄さん、貝原知事、笹山神戸市長たち

さん咲かせようということです」と、運動に立ち上がった思いを話している。

早春に清冽な白い花を咲かせるコブシ、ハクモクレンはさつそく異人館の街・北野に植えられた。目標は二百本だが、今年の春は「ひょうごグリーンネットワーク」運動の趣旨に賛同し、全国から寄せられた基金をもとに北野・山本地区をまもり、育てる会の手で五十本の木が植えられた。

芦屋でも六十七の公園に百二本のハクモクレンが植えられた。ポートアイランドの神戸ファッショントウ協議会も今年の秋から植樹することを検討している。

復興住宅一戸当たり二本。その目標を達成するため、安藤さんは全国の企業や自治体を訪れて募金への協力を訴えている。これまでに寄せられた募金額は個人や企業から千九百件、三億三百九十万円。苗木の提供を申し出た団体は高知、徳島、岡山、

京都、石川などの府県や札幌、仙台、千葉、横浜、北九州などの各市の八十九団体にのぼり、ほかにJ R西日本、阪神、阪急、東京海上火災保険などがグリーンボランティアとして参加している（八月二十二日現在）。

「グリーンネットワークは、緑によつて人と人がつながっていくことです。被災地と全国を結ぶ絆であり、植えられた木を復興住宅に移ってきた人たちが一緒に水をやって育てることで新しい社会が生まれ、新しい環境を育むことができるのではないのでしょうか」

そして、安藤さんは「大きな打撃を受けた阪神間のまちが、五年後、十年後には人間と自然が共存する『いのちある街』となっていくことを願っているのです」という。

道路やビルががんじょうに作り直されても、コンクリートでは人のところはいいやせない。いのちは、風にそよぎ、生長し、花を咲かせる自然とともにあるものなのだから。



ハンター坂にことし咲いたコブシ

〈呼びかけ人〉

下河辺 淳（元阪神・淡路復興委員会委員長）
梅原 猛（哲学者）
利根川 進（マサチューセッツ工科大学教授）
瀬戸内寂聴（作家）
井手 久登（東京大学農学部教授）
大西 正文（大阪商工会議所会頭）
石橋 毅一（プレハブ建築協会会長）
安藤 忠雄（建築家）

〈問い合わせ先〉

ひょうごグリーンネットワーク
（阪神・淡路震災復興支援10年委員会内）
〒650 神戸市中央区下山手通4-16-3
兵庫県民会館8F
TEL.078・321・2131 内線379
FAX.078・393・2959

〈募金の応募方法〉

1口5000円単位で何口でも可。3口以上で希望者には兵庫県から領収書が発行される。5000円以上の募金者は寄付者銘板に名前が記載される。

◆振り込み先

★郵便振替口座

口座番号：01180-3-86774
加入者名：ひょうごグリーンネットワーク

★銀行口座

銀行名：さくら銀行大阪駅前店
口座番号：普通預金 6680567
名義：ひょうごグリーンネットワーク

★銀行口座

銀行名：みどり銀行本店営業部
口座番号：普通預金 763436
名義：ひょうごグリーンネットワーク